

「主な取組」検証票

施策展開	1-(6)-ア	沖縄らしい風景づくり	施策	① 良好な景観創出のための仕組みづくり
			施策の小項目名	○市町村の景観行政団体への移行
主な取組	沖縄らしい風景づくり促進事業（景観行政団体への移行促進）			
対応する主な課題	②各地域が有する自然、歴史、風土等を生かした沖縄らしい良好な景観の形成に向けては、市町村や地域住民が方向性を共有し、主体的に参画できる仕組みの構築が不可欠である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
市町村の景観行政団体への移行を促進し、市町村と地域が風景・まちなみ景観の方向性を共有する場の設定やそのプロセスなど、地域資源を活用した景観計画や行動計画等詳細計画の策定を促進する。		H29	H30	R元	R2	R3
		32団体 景観行政団体数 (累計)	34団体	36団体	38団体	41団体
実施主体	県、市町村					
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課 【098-866-2408】					
		景観行政団体移行促進、景観計画策定支援				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		R3年度					令和2年度活動内容と令和3年度活動計画		
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
景観形成推進事業	委託	6,187	13,461	15,173	10,848	6,651	21,764	県単等	
									○R2年度：市町村の景観行政団体移行に向けての助言等を5団体に対して行った。 ○R3年度：市町村の景観行政団体に向けての助言等を5団体に対して行う。
予算事業名		R3年度					令和2年度活動内容と令和3年度活動計画		
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	
									○R2年度：— ○R3年度：—

活動指標名	景観行政団体数（累計）				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	32団体	32団体	34団体	36団体	36団体	38団体	94.7%	6,651	順調	市町村の景観行政団体移行に向けての助言等を5町村（東村、金武町、嘉手納町、南大東村、多良間村）に対して行った。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 県内景観行政団体数は、令和2年度の計画値38団体に対して実績値36団体と順調に進んでいる。 景観行政団体が増えることで各地域に適した景観施策が実施される。
活動指標名	—				R2年度					
実績値	—	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				R2年度					
実績値	—	—	—	—	—	—	—			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案					反映状況					
・未移行の5町村に対して実施した個別ヒアリングを踏まえ、関係町村の移行に向けた作業状況をフォローアップし課題について指導助言を行い、景観行政団体移行の推進に取り組む。					・市町村職員を対象とした県内景観行政連絡会議及び景観法セミナー（沖縄総合事務局・沖縄県共催）を開催し、景観に対する知識習得を図った。 ・未移行の5町村にはヒアリングから得られた課題や検討状況を踏まえ、個別に情報提供や相談対応を行った。					

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・離島等の中小町村では、予算や人員の制限から、景観行政団体の移行に向けた取組に時間を要する。

○外部環境の変化

・国立公園指定等の効果により、市町村の景観に対する意識が高まっている。
・市町村総合計画といった上位計画の改訂作業も始まり、景観行政団体の移行時期を見送る自治体が出ている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・取組は順調に進捗しているが、更なる進展に向けて、景観行政団体の移行に係る課題の解決策を検討する必要がある。
・隣接市町村と連携した広域景観等の視点から景観行政団体移行の必要性を整理し、基礎調査の実施に向けて積極的に働きかける必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・未移行の5町村に対して実施した個別ヒアリングを踏まえ、関係町村の移行に向けた作業状況を引き続きフォローアップして課題についての指導助言を行うとともに、広域景観等の視点から移行の必要性を整理し、基礎調査の実施に向けて積極的に働きかけるなど、景観行政団体移行の推進に取り組む。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(6)-ア	沖繩らしい風景づくり	施策	① 良好な景観創出のための仕組みづくり
			施策の小項目名	○市町村の景観計画等策定支援
主な取組	沖繩らしい風景づくり促進事業（景観計画策定及び景観地区指定の支援）			
対応する主な課題	②各地域が有する自然、歴史、風土等を生かした沖繩らしい良好な景観の形成に向けては、市町村や地域住民が方向性を共有し、主体的に参画できる仕組みの構築が不可欠である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
道路や沿道空間の緑化、無電柱化等に加え、公園・緑地等整備により、花と緑にあふれ、潤いのある公共空間の形成を促進するとともに、市町村における景観地区の指定に向けた支援を行う。		H29	H30	R元	R2	R3
		29市町村 景観計画(累計)	32市町村	35市町村	38市町村	41市町村
		景観計画・景観向上行動計画の策定支援				
実施主体	県、市町村	7地区 景観地区(累計)	9地区	14地区	19地区	24地区
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課	【098-866-2408】		景観地区指定の支援		

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	景観形成推進事業						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
									県単等	委託
予算事業名	—						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
									—	—

活動指標名	景観計画(累計)				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		27市町村	29市町村	30市町村	33市町村	35市町村	38市町村	92.1%	6,651	やや遅れ
活動指標名	景観地区数(累計)				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	5地区	8地区	8地区	9地区	9地区	19地区	47.4%			
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案					反映状況					
・市町村との連携強化を図るため意見交換を密に行い、市町村の景観まちづくりに関する取り組み(地域住民を対象とした講演会や勉強会等)に県内外の風景づくりアドバイザーを派遣する等、景観地区の指定等に向けて市町村へ助言・支援を行う。なお、風景づくりアドバイザーの派遣に当たっては、関係市町村の要望くみ取りや早期日程調整等に留意する。					・景観地区指定に向けての助言等を1市1町2村(浦添市、竹富町、北大東村、恩納村)に対して行うとともに、先進事例地について学が研修や意見交換を実施した。 ・竹富町、北大東村に関しては指定手続に着手した。					

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ 景観地区指定に向けて、地域住民との合意形成を図る市町村へ継続して的確な助言・支援を行う必要がある。

○外部環境の変化

・ 景観地区の指定にあたっては地域住民との合意形成が必要なため、市町村は地域住民の景観への関心を高める必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ 市町村が地域住民を対象とした講演会や勉強会等を開催する際に県として風景づくりアドバイザーを派遣するなど支援に努め、地域住民の景観への関心を高めることで景観地区の指定等に向けた合意形成が円滑に図れるよう取り組んでいく必要がある。

・ 景観地区指定の候補地について積極的に情報収集を行うとともに、市町村に対して先進事例の情報提供を行うなど、景観地区の指定等に向けて働きかける必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・ 市町村との連携強化を図るため意見交換を密に行い、市町村の景観まちづくりに関する取り組み（地域住民を対象とした講演会や勉強会等）に県内外の風景づくりアドバイザーを派遣する等、景観地区の指定等に向けて市町村へ助言・支援を行う。なお、風景づくりアドバイザーの派遣に当たっては、関係市町村の要望くみ取りや早期日程調整等に留意するとともにweb会議の積極活用により効率化を図る。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(6)-ア	沖縄らしい風景づくり	施策	① 良好な景観創出のための仕組みづくり
			施策の小項目名	○景観評価システムの構築
主な取組	沖縄らしい風景づくり促進事業（景観アセスメント構築、実施）			
対応する主な課題	③風景づくり、景観形成を推進するにあたって、良質な公共空間の創出により地域の景観形成を先導するとともに、良質な景観形成に関する専門的な知識を有する人材育成や技術開発を行う必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
良質な公共空間の創出を目的として、景観アセスメントの実施により、良好な景観形成を図り、沖縄らしい風景づくりに適正に反映する。		H29	H30	R元	R2	R3
		40件 景観アセス数 (累計)	50件	60件	70件	80件
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課 【098-866-2408】					
		景観アセスメント構築、実施				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		H28年度					H29年度		H30年度		R元年度		R2年度		R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	決算額	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	当初予算額	主な財源	当初予算額	主な財源	当初予算額	主な財源	当初予算額	主な財源	
沖繩らしい風景づくり促進事業																		OR2年度： 8事業（道路3、公共建築2、河川1、海岸2）を対象に景観アセスメントとして景観評価システムの本格運用を実施した。 OR3年度： 道路・河川・公共建築・港湾・海岸事業（計10事業程度）を対象に景観アセスメントとして景観評価システムの本格運用を実施する。
一括交付金（ソフト）	委託	55,305	23,141	14,664	4,520	38,332		12,825	一括交付金（ソフト）									
—																		OR2年度： — OR3年度： —

活動指標名	景観アセス数（累計）				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		28件	37件	45件	50件	58件	70件	82.9%	38,332	概ね順調
活動指標名	—				R2年度					
実績値	—	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				R2年度					
実績値	—	—	—	—	—	—	—			

(2) これまでの改善案の反映状況

令和2年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> ・景観評価システムの円滑な運用に向けて、景観検討の前年度から事業課との連携強化を図る。 ・実務を通じて県事業担当者や県内コンサルタントの技術力向上を図るため、引き続き、有識者を交えた景観アドバイス会議（各事業×2回程度）等を開催する。また、景観評価システムに係る実務的な研修等の実施を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・景観評価システムの円滑な運用に向けて、景観評価システムの目的や仕組みについて定期的に部内周知を図るとともに、景観検討の前年度から事業課と情報共有する等の連携を強化した。 ・有識者を交えた景観アドバイス会議を事業進捗に合わせて開催するとともに、景観設計の事例等の情報提供を行い、県事業担当者や県内コンサルタントの技術力向上を図った。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・ 景観評価システムの目的や仕組み等について、県事業担当者の知識を深化させる必要がある。
- ・ 景観評価システムの対象となる事業について、予算要求事務のスケジュールに留意しつつ早い段階から事業課と連携する必要がある。

○外部環境の変化

- ・ 県内には景観設計の十分な経験及び技術力をもつコンサルタントが少なく、景観評価システムを円滑に運用するには、県内技術者の育成が不可欠である。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 景観評価システムの円滑な運用に向けて、景観設計等に精通した技術者の育成が不可欠である。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ 景観評価システムの円滑な運用に向けて、引き続き、景観検討の前年度から事業課との連携強化を図る。
- ・ 実務を通じて県事業担当者や県内コンサルタントの技術力向上を図るため、引き続き、有識者を交えた景観アドバイス会議（各事業×2回程度）等を開催する。また、景観評価システムに係る実務的な研修等の実施を検討する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(6)-ア	沖縄らしい風景づくり	施策	① 良好な景観創出のための仕組みづくり
			施策の小項目名	○風景づくりリーダー育成とモノづくりの促進
主な取組	沖縄らしい風景づくり促進事業（地域景観の形成を図る人材の育成）			
対応する主な課題	③風景づくり、景観形成を推進するにあたって、良質な公共空間の創出により地域の景観形成を先導するとともに、良質な景観形成に関する専門的な知識を有する人材育成や技術開発を行う必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
良好な景観創出のための仕組みづくりを目的として、風景・まちなみの再生を先導する地域に根ざした風景づくりリーダー等を育成する。		H29	H30	R元	R2	R3
		300人 講習修了数				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課 【098-866-2408】					
		景観形成人材育成(地域人材、地域を支援・景観を形成する専門家の育成)				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		H28年度					H29年度		H30年度		R元年度		R2年度		R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	決算額	決算額	決算額	決算額	決算額	決算見込額	当初予算額	主な財源	当初予算額	主な財源	当初予算額	主な財源	当初予算額	主な財源	当初予算額	主な財源	
沖縄らしい風景づくり促進事業																		OR2年度： 人材育成計画に基づき、県内6地区の風景づくりサポーター・地域景観リーダー及び県内市町村の景観行政コーディネーター育成の講習会等を開催した。 OR3年度： 人材育成計画に基づき、県内6地区の風景づくりサポーター・地域景観リーダー及び県内市町村の景観行政コーディネーター育成の講習会等を開催する。
一括交付金(ソフト)	委託	55,305	23,141	14,664	4,520	38,332		12,825	一括交付金(ソフト)									
—																		OR2年度： — OR3年度： —

活動指標名	R2年度				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
講習修了数	415人	457人	718人	地元調整	442人	300人	100.0%	38,332	順調	平成24年度に策定した「沖縄の風景づくりに係る人材育成計画」に基づき、県内6地区(首里金城地区、壺屋地区、浜比嘉地区、宇豊見城地区、浦添前田地区、竹富島地区)において風景づくりサポーター及び地域景観リーダー並びに県内市町村の景観行政コーディネーター育成のための講習会等を開催した。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 講習修了数は、令和2年度の計画値300人に対して実績値442人と計画値を上回っている。風景づくりに係る人材育成が実施されることにより、良好な景観形成に必要な人材が育成され、沖縄らしい風景づくりに寄与する。
活動指標名										
実績値										
活動指標名										
実績値										

(2) これまでの改善案の反映状況

令和2年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> 地元市町村及び実施地区と連携して、人材育成に関する具体的なスケジュールや講習内容を共有する。 必要に応じて、市町村と連携して新規地区の追加について検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元市町村及び実施地区と連携して、企画段階から人材育成に関する具体的なスケジュールや講習内容を共有し、県内6地区において地域の風景づくり活動の支援を行った。 計画した地区で地域人材育成を実施できたため、新規地区の追加検討は実施していない。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・地域人材育成の円滑な実施にあたっては、地元市町村及び実施地区との連携が必要不可欠である。

○外部環境の変化

・風景・まちなみづくりに対する地域住民の関心を高めるには、長期的な視点から継続的な取組が求められる。

・風景づくりに係る人材育成後、育成された人材が活動を実施できる体制が整備されていない。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・地元市町村及び実施地区と連携の上、地域住民の景観への関心を高めるために長期的な視点から継続した取組が必要である。

4 取組の改善案 (Action)

・地域住民の景観への関心を高めるため、地元市町村及び実施地区と連携を図りながら各地区で景観形成に向けた活動やワークショップ等を開催し、地域景観協議会設立に向け引き続き取り組んでいく。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(6)-ア	沖繩らしい風景づくり	施策	② 景観資源の保全・再生・利用
			施策の小項目名	○質の高い公共空間の創造
主な取組	沖繩らしい風景づくり促進事業(景観地区指定の支援)			
対応する主な課題	②各地域が有する自然、歴史、風土等を生かした沖繩らしい良好な景観の形成に向けては、市町村や地域住民が方向性を共有し、主体的に参画できる仕組みの構築が不可欠である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
道路や沿道空間の緑化、無電柱化等に加え、公園・緑地等整備により、花と緑にあふれ、潤いのある公共空間の形成を促進するとともに、市町村における景観地区の指定に向けた支援を行う。		H29	H30	R元	R2	R3
		7地区 景観地区数 (累計)	9地区	14地区	19地区	24地区
実施主体	県、市町村		統一景観の創造(建築物の形態意匠、高さ、壁面の位置等)			
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課 【098-866-2408】		地域の特徴を活かした集落内公共施設の整備(景観重要公共施設の指定等)			

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名 景観形成推進事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度: 景観地区指定に向けて取り組んでいる1市1町2村に対して、指定に係る助言等を行うとともに、うち2地区の指定手続に着手した。	
県単等	委託	6,187	13,461	15,173	10,848	6,651	21,764	県単等	OR3年度: 景観地区指定に向けて取り組んでいる1市1町2村に対して、指定に向けて助言等を行う。	

予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度: —	
		—	—	—	—	—	—		OR3年度: —	

活動指標名	景観地区数(累計)				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	5地区	8地区	8地区	9地区	9地区	19地区	47.4%	6,651	大幅遅れ	景観地区指定に向けて取り組んでいる1市1町2村(浦添市、竹富町、北大東村、恩納村)に対して、指定に係る助言等を行った。また、竹富町、北大東村に関しては指定手続に着手した。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 景観地区は、計画値19地区に対して実績値9地区となっており、地域の合意形成や関係機関との調整に時間を要していることから、大幅遅れとなっている。 各地域で景観地区等が指定されることにより、統一された良好な景観が形成される。
活動指標名	—				R2年度					
実績値	—	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				R2年度					
実績値	—	—	—	—	—	—	—			

(2) これまでの改善案の反映状況

令和2年度の取組改善案	反映状況
・市町村との連携強化を図るため意見交換を密に行い、市町村の景観まちづくりに関する取り組み(地域住民を対象とした講演会や勉強会等)に県内外の風景づくりアドバイザーを派遣する等、景観地区の指定等に向けて市町村へ助言・支援を行う。なお、風景づくりアドバイザーの派遣に当たっては、関係市町村の要望くみ取りや早期日程調整等に留意する。	・景観地区指定に向けての助言等を1市1町2村(浦添市、竹富町、北大東村、恩納村)に対して行うとともに、先進事例地について学ぶ研修や意見交換を実施した。 ・竹富町、北大東村に関しては指定手続に着手した。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ 景観地区指定に向けて、地域住民との合意形成を図る市町村へ継続して的確な助言・支援を行う必要がある。

○外部環境の変化

・ 景観地区の指定にあたっては地域住民との合意形成が必要なため、市町村は地域住民の景観への関心を高める必要がある。

・ 景観地区指定に向けて、市町村は関係機関と調整のうえ計画的に取り組む必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ 市町村が地域住民を対象とした講演会や勉強会等を開催する際に県として風景づくりアドバイザーを派遣するなど支援に努め、地域住民の景観への関心を高めることで景観地区の指定等に向けた合意形成が円滑に図れるよう取り組んでいく必要がある。

・ 景観地区指定の候補地について積極的に情報収集を行うとともに、市町村に対して先進事例の情報提供を行うなど、景観地区の指定等に向けて働きかける必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・ 市町村との連携強化を図るため意見交換を密に行い、市町村の景観まちづくりに関する取り組み(地域住民を対象とした講演会や勉強会等)に県内外の風景づくりアドバイザーを派遣する等、景観地区の指定等に向けて市町村へ助言・支援を行う。なお、風景づくりアドバイザーの派遣に当たっては、関係市町村の要望くみ取りや早期日程調整等に留意するとともにweb会議の積極活用により効率化を図る。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(6)-ア	沖縄らしい風景づくり	施策	② 景観資源の保全・再生・利用
			施策の小項目名	○景観・環境・利用に配慮した河川・海岸・公園等の整備
主な取組	自然環境に配慮した河川の整備			
対応する主な課題	④河川や海岸などの水辺は、水と緑の貴重な空間や憩いの場としてのニーズが高まっているとともに景観を構成する重要な要素であることから、良好な水辺環境・景観の創出が求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
護岸に自然石を使用する等、環境・景観に配慮した多自然川づくりにより、河川の水辺環境の保全・再生を図る。		H29	H30	R元	R2	R3
		整備延長 5.4km				約9.4km (累計)
		治水対策としての多自然川づくり				
		1河川 水辺環境 の再生に 取り組む河 川数				1河川 (累計)
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部河川課		【098-866-2404】			河川の水辺環境の再生(リュウキュウアユの復元等)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 沖縄振興公共投資交付金(河川)、社会資本整備総合交付金(河川)							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○R2年度：護岸に自然石を使用する等、環境・景観に配慮した多自然川づくりにより、河川の水辺環境の保全・再生を図った。	
									○R3年度：護岸に自然石を使用する等、環境・景観に配慮した多自然川づくりにより、河川の水辺環境の保全・再生を図る。	
一括交付金(ハード)	直接実施	2,911,274	2,914,689	1,879,962	2,544,164	2,900,398	4,070,735	一括交付金(ハード)		

活動指標名	整備延長(治水対策としての多自然川づくり)				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		4.4km	5.3km	5.7km	5.8km	5.8km	8.4km	69.0%	2,900,398	概ね順調
活動指標名	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度					
実績値	1	1	1	1	1	1	100.0%			
活動指標名	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度					
実績値										
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案						反映状況				
・河川事業について、地元住民の理解を深め、協力を得るため、引き続き事業説明会等を開催する。						・地元住民の理解と協力を得て事業が円滑に行われるよう、昨年度に引き続き、地元市町村及び自治会への事業説明会を実施し、長期間に及ぶ河川整備事業に対する理解の深化を図った。				

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・河川整備は、下流側から整備するという事業の特殊性から、事業効果をあげるには多大な期間を要する。

○外部環境の変化

・河川環境を再生し、回遊性生物等を復元するためには、流域全体で環境を再生する必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・河川整備は、事業効果をあげるには多大な期間を要するため、引き続き地元住民の事業に対する理解と協力を得るため事業説明会等で説明する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・河川事業について、地元住民の理解を深め、協力を得るため、引き続き事業説明会等を開催する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(6)-ア	沖縄らしい風景づくり	施策	② 景観資源の保全・再生・利用
			施策の小項目名	○景観・環境・利用に配慮した河川・海岸・公園等の整備
主な取組	景観・親水性に配慮した海岸の整備			
対応する主な課題	④河川や海岸などの水辺は、水と緑の貴重な空間や憩いの場としてのニーズが高まっているとともに景観を構成する重要な要素であることから、良好な水辺環境・景観の創出が求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
良好な水辺環境・景観の創出のため、自然石を用いた石積み式護岸、傾斜式護岸など、景観・親水性に配慮した海岸の整備を行う。		H29	H30	R元	R2	R3
		約9.1km 整備延長				約10.0km (累計)
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部海岸防災課 【098-866-2410】					
		利用者に配慮した海岸整備（傾斜式護岸や階段工・スロープなど）				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
海岸整備費									
一括交付金(ハード)	直接実施	178,234	146,760	61,830	41,026	42,522	—	一括交付金(ハード)	OR2年度：北谷町の北前海岸について、良好な水辺環境・景観の創出を図るため、護岸L=30mの整備を行った。 OR3年度：—
海岸老朽化対策事業費(防災・安全)									
内閣府計上	直接実施	26,560	54,962	87,383	15,612	142,264	—	内閣府計上	OR2年度：宜野湾市の伊佐海岸について、景観・親水性に配慮した護岸(L=37m)の整備を行った。 OR3年度：—

予算事業名		港湾海岸老朽化対策事業費					R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ハード)	直接実施	283,710	317,818	198,707	191,244	48,254	37,000	一括交付金(ハード)	OR2年度：うるま市の中城湾港海岸(豊原地区)(L=128m)等において、景観・親水性に配慮した護岸の整備を行った。 OR3年度：大宜味村の塩屋港海岸(白浜地区)等において、良好な水辺環境・景観の創出を図る。
予算事業名		港湾海岸環境整備事業費					R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ハード)	直接実施	3,875	17,660	693,903	629,097	299,878	530,712	一括交付金(ハード)	OR2年度：金武町の金武湾港海岸(ギンバル地区)において、環境調査を行いながら、養浜(L=253m)等の整備を行った。 OR3年度：金武町の金武湾港海岸(ギンバル地区)において、環境調査を行いながら、養浜(L=266m)等の整備を行う。
予算事業名		海岸事業費					R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ハード)	直接実施	—	—	—	—	—	70,000	一括交付金(ハード)	OR2年度：— OR3年度：北谷町の北前海岸(L=50m)について、良好な水辺環境・景観の創出を図る。
予算事業名		港湾海岸事業費					R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
内閣府計上	直接実施	—	—	—	—	—	—	—	OR2年度：— OR3年度：—

様式1(主な取組)

予算事業名 海岸老朽化対策事業費							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○R2年度： —
							一括交付金(ハード)	直接実施	—
予算事業名 海岸事業費(防災・安全)							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○R2年度： —
							内閣府計上	直接実施	—

様式1(主な取組)

活動指標名	利用者に配慮した海岸整備延長(累計)				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		9,054m	9,381m	9,693m	11,397m	11,525m	9,557m	100.0%	532,918	順調
活動指標名	—				R2年度					
実績値	—	—	—	—	—	—	—	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果		
	—	—	—	—	—	—	—			令和2年度に128m整備し、延べ約11.5kmの整備延長となり、計画値を上回ったため順調とした。その結果、良好な水辺環境・景観の創出が図られた。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和2年度の取組改善案	反映状況
・景観や親水性に配慮した海岸を整備するにあたっては、引き続き、必要な事項について意見交換会の実施や聞き取り調査等により有識者や地元の意見を聴取し、可能な限り設計内容に取り入れる。	・有識者や地元の意見を取り入れた景観や親水性に配慮した設計に基づき、護岸等の整備を行った。



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・本県の海岸は、海水浴、ダイビング、散策、行事など、様々な利用形態があり、景観や親水性に配慮した海岸を整備するにあたっては、海岸ごとの利用形態や問題点を把握することが必要がある。

○外部環境の変化

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・景観や親水性に配慮した海岸を整備するにあたっては、景観に関する有識者及び市町村、区等の地元の意見聴取等により現状や問題点を確認し、必要な対策を検討していく。

4 取組の改善案 (Action)

・景観や親水性に配慮した海岸を整備するにあたっては、引き続き、必要な事項について意見交換会の実施や聞き取り調査等により有識者や地元の意見を聴取し、可能な限り設計内容に取り入れる。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(6)-ア	沖縄らしい風景づくり	施策	② 景観資源の保全・再生・利用
			施策の小項目名	○景観・環境・利用に配慮した河川・海岸・公園等の整備
主な取組	都市公園における風景づくり			
対応する主な課題	②各地域が有する自然、歴史、風土等を生かした沖縄らしい良好な景観の形成に向けては、市町村や地域住民が方向性を共有し、主体的に参画できる仕組みの構築が不可欠である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
沖縄らしい文化的な歴史資産、風土および自然と共生する憩いの場を創出するため、都市公園の整備を行う。		H29	H30	R元	R2	R3
		33.5 ha 供用面積				56.9 ha (累計)
実施主体	国、県					
担当部課【連絡先】	土木建築部都市公園課 【098-866-2035】					
		歴史景観と調和する都市公園の整備 (首里城公園、中城公園、浦添大公園)				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名	国直轄						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度： 国は、国営沖縄記念公園首里城地区において火災により焼損した施設の復旧・復興に取り組んだ。 OR3年度： 国は、国営沖縄記念公園主事業地区において火災により焼損した施設の復旧・復興に取り組む。	
国直轄		-	-	-	-	-	-	国直轄		

予算事業名	公園費(社会資本交付金)						R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度： 首里城公園においては文化財調査、レストセンター改修、中城公園及び浦添大公園においては園路、広場整備を行った。 OR3年度： 首里城公園においては文化財調査、レストセンター改修、園路整備、中城公園及び浦添大公園においては園路、広場整備を行う。	
内閣府計上	補助	718,333	784,168	653,356	1,218,953	646,901	1,340,648	内閣府計上		

活動指標名	供用面積(都市公園の整備)(単位：ha)				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	646,901	順調	沖縄らしい文化的な歴史資産、風土および自然と共生する憩いの場を創出するため、首里城公園において、文化財調査、レストセンター改修、中城公園、浦添大公園において、園路、広場整備を行った。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 首里城公園、中城公園、浦添大公園において、園路・広場等、公園利用に供する施設を整備し、供用開始に向けて着実に進捗しており、順調である。
		33.5	33.9	35	35.7	35.7	33.5			
活動指標名	-				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名	-				R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			

(2) これまでの改善案の反映状況

令和2年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> 都市公園における風景づくりについては、引き続き公園用地取得に向け、地権者等の同意が得られるよう粘り強く交渉を続けるとともに、市町村を通じて地元自治会、関係者等の協力を得ながら事業を推進する。また、整備の効果が早期に発現できるよう部分的な供用開始に取り組む。 発掘調査を担当する関係機関と連絡調整を密に行い、文化財に対して適切な対応を図りながら、事業を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 公園整備の効果を早期に発現させるため、市町村を通じて、地元自治会や関係者等の協力を得ながら円滑な公園整備に努めたが、用地交渉難航等により公園用地が計画通り確保できていない箇所については整備が遅れている。また、整備完了箇所については部分的な供用開始に取り組めるよう、整備を行った。 発掘調査については関係機関との連絡調整を密に行ったことで、計画通り調査が行われている。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・中城公園については、用地取得や物件補償において、事業への理解が得られないことや代替地を確保できない等の理由から、地権者等の同意を得るまでに長時間を要している。
- ・発掘調査を並行しながら公園整備を進めている箇所については、貴重な文化財が発見された場合は詳細に調査を行う必要があることから、計画的な整備が難しい状況にある。

○外部環境の変化

—

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・公園用地の取得に長期間を要することから、地権者等の同意が早期に得られるよう、市町村を通じて地元自治会、関係者等の協力を得ながら事業を推進する必要がある。
- ・また、発掘調査を並行しながら整備を進める箇所については、関係機関との連携が必要である。

4 取組の改善案 (Action)

- ・都市公園における風景づくりについては、引き続き公園用地取得に向け、地権者等の同意が得られるよう粘り強く交渉を続けるとともに、市町村を通じて地元自治会、関係者等の協力を得ながら事業を推進する。また、整備の効果が早期に発現できるよう部分的な供用開始に取り組む。
- ・発掘調査を担当する関係機関と連絡調整を密に行い、文化財に対して適切な対応を図りながら、事業を推進していく。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(6)-ア	沖縄らしい風景づくり	施策	② 景観資源の保全・再生・利用
			施策の小項目名	○無電柱化の推進
主な取組	無電柱化推進事業			
対応する主な課題	⑤観光地や市街地において、電柱等が景観形成を阻害していることから、無電柱化の推進が求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
緊急輸送路や避難路確保の防災対策、安全で快適な通行空間の確保、都市景観の向上、観光振興を目的とし、電線類を地中化するため電線共同溝を整備する。		H29	H30	R元	R2	R3
		6.0km	6.0km	6.0km	6.0km	6.0km
実施主体	国、県、市町村					無電柱化整備延長
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課		【098-866-2665】			要請者負担方式等による無電柱化の推進(景観)

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 無電柱化推進事業(要請者負担方式)							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度： 無電柱化を推進するため、電線共同溝を4.8km整備した。	
							一括交付金(ハード)	直接実施	501,820	663,761

予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度：	

活動指標名	無電柱化整備延長(要請者負担方式等による無電柱化の推進(景観))				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要 無電柱化整備総延長について、令和2年度は国が1.3km、県が1.3km、市町村が2.2km、合計で4.8kmを整備した。
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			
	4.6km	5.8km	5.7km	5.0km	4.8km	6.0km	80.0%			
活動指標名					R2年度			746,723	概ね順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 無電柱化整備総延長について、令和2年度は国が1.3km、県が1.3km、市町村が2.2km、合計で4.8kmを整備した。計画値(6.0km)に対し、概ね順調に取り組むことができた。
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B			

(2) これまでの改善案の反映状況

令和2年度の取組改善案	反映状況
・「沖縄ブロック無電柱化推進協議会」にて、関係機関(国、県、市町村、電線管理者)と無電柱化推進計画等について情報共有を図り、無電柱化の推進に連携して取り組む。	・令和2年度は「沖縄ブロック無電柱化推進協議会」の打合せに参加し、次期無電柱化推進計画(令和3年度以降)の対象路線について関係機関(国、県、市町村、電線管理者)と意見交換等を行った。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・次期無電柱化推進計画(令和3年度以降)の策定に向け、「沖縄ブロック無電柱化推進協議会」において、検討が進められている。

○外部環境の変化

・国の「防災・減災、国土強靱化のための5ヵ年加速化対策」により、市街地等の緊急輸送道路における無電柱化を推進する。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・令和3年度以降の基本的な方針・期間・目標等を定めた次期無電柱化推進計画が策定される見込みであり、新たに電線管理者と合意する路線について無電柱化の進捗を図ることが出来る。

4 取組の改善案 (Action)

・次期無電柱化推進計画及び実施路線について関係機関(国、県、市町村、電線管理者)と連携を図り、無電柱化の推進に取り組む。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(6)-ア	沖縄らしい風景づくり	施策	② 景観資源の保全・再生・利用
			施策の小項目名	○古民家の保全・再生・利用
主な取組	古民家の保全・継承			
対応する主な課題	⑥景観を形成する古民家や集落は、都市化や老朽化などで失われつつあり、古民家の保全に向けた技術者の育成や資材の確保等の取組が求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
地域に根付いた古民家を保存・活用し、地域の活性化を図るため、シンポジウムを行い景観の保全に資する取り組みの普及・促進を行う。		H29	H30	R元	R2	R3
		1回 シンポジウムの開催				
実施主体	県、市町村、関係団体					
担当部課【連絡先】	土木建築部住宅課 【098-866-2418】					
		古民家の再生・保全の啓発				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		住宅建築に係る講演会					R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度	OR3年度
内閣府計上	委託	1,624	1,874	1,948	2,537	2,119	2,200	内閣府計上	OR2年度： 建築関係技術者向けの講演会で、沖縄の伝統木造住宅（古民家）に係る講演を行い古民家の再生・活用の普及・啓発を行った。	OR3年度： 建築関係技術者向けの講演会で、沖縄の伝統木造住宅（古民家）に係る講演を行い古民家の再生・活用の普及・啓発を行う。
予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度	OR3年度
		-	-	-	-	-	-		-	-

活動指標名	シンポジウムの開催（環境共生住宅の普及啓発・研究促進）				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	1回	1回	1回	1回	1回	1回	100.0%	2,119	順調	建築関係技術者向けの講演会で、沖縄の伝統木造住宅（古民家）に係る講演を行い古民家の再生・活用の普及・啓発を行った。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 建築関係技術者を対象に沖縄の伝統木造住宅（古民家）に係る講演を1回開催し、順調に取り組むことができた。同講演会開催により、古民家の保全・再生・利用について普及・啓発が図られた。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況		令和2年度の取組改善案				反映状況				
		・古民家の再生に係る大工や職人を増加させるために建築技術者に向けて広く広報を行う。 ・古民家の需要増及び古材の流通促進に資するため、シンポジウムの開催や「古民家再生活用部会」（都市計画・モノレール課）への参加等、県民に対して古民家の魅力を引き続き発信することとする。				・古民家の保全に関するシンポジウムを開催した。チラシ・ポスターを作成し、技術者をはじめ、学生・一般まで広く呼びかけ、技術者の育成や県民に対して古民家の魅力を発信することができた。				

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

○外部環境の変化

- ・ 伝統的軸組構法で木造住宅を建築できる大工や職人が、需要減少のためにほとんどいなくなっている。
- ・ 古材活用の課題として、古民家の解体、古材の加工や処理、保管や展示に手間と費用がかかり、販売価格が新材の利用にくらべ割高である。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・ 伝統的軸組工法で木造住宅を建築できる大工や職人を増やす必要がある。
- ・ 古民家の需要を増やすため、県民の関心を高める必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・ 古民家の再生に係る大工や職人を増加させるために建築技術者に向けて広く広報を行う。
- ・ 古民家の需要増及び古材の流通促進に資するため、シンポジウムの開催や「古民家再生活用部会」(都市計画・モノレール課)への参加等、県民に対して古民家の魅力を引き続き発信することとする。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(6)-イ	花と緑あふれる県土の形成	施策	② 都市、道路、郊外及び農山村の緑化
			施策の小項目名	○風致地区の指定
主な取組	市町村緑化推進支援事業			
対応する主な課題	①森林、都市緑化、公園緑化など緑化の対象は広範囲に及ぶため、行政のみならず、地域住民、企業等との協働による県民一体となった緑化の推進が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
都市計画区域内21市町村に対し、緑地の適正な保全及び緑化の推進に関する緑の基本計画策定並びに風致地区指定等の地域制緑地制度の活用に向けて技術的指導、支援を行い、対象となる全市町村が計画策定、制度の活用をすることで、都市計画区域内における緑地面積の確保を図る。		H29	H30	R元	R2	R3
		15市町村 (計画策定市町村数)				21市町村
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部都市公園課	【098-866-2035】				
		「緑の基本計画」策定に対する市町村への技術的指導・支援				
		風致地区指定の促進に向けた市町村への技術的指導				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		R3年度					令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源
都市計画策定費	委託	-	14,841	-	-	-	-	○R2年度：市町村にみどりの望ましい姿と実現のための方針を定めた広域緑地計画の周知等を行い「緑の基本計画」及び風致地区策定等の取組みを促進した。 ○R3年度：市町村に広域緑地計画の周知等を行い「緑の基本計画」及び風致地区策定等の取組みを促進する。
-							令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源
		-	-	-	-	-	-	○R2年度： ○R3年度：

活動指標名	計画策定市町村数(「緑の基本計画」)				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	15	15	15	15	15	19	78.9%	0 概ね順調	沖縄県広域緑地計画(改定計画)の周知等を行い、市町村へ「緑の基本計画」策定及び更新の取組を促した。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 「緑の基本計画」の指針となる沖縄県広域緑地計画(改定計画)の周知等により、県におけるみどりの目標および市町村における「緑の基本計画」策定及び更新について共通認識が図られている。 1市において計画が更新され、1市が計画策定中となっている。	
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和2年度の取組改善案					反映状況					
・県内各市町村と緑地保全等について意見交換を行い、「緑の基本計画」の策定及び更新など、良好な自然環境等の保全を図る取組を促進する。					・「緑の基本計画」の策定及び更新など、良好な自然環境等の保全を図る取組を促進するため、県内各市町村と緑化施策について意見交換を行った。					

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・都市計画区域内市町村においては、緑地の適正な保全及び緑化の推進に関する緑の基本計画を策定できるが、未策定の市町村や更新が行われていない市町村がある。

○外部環境の変化

—

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・「緑の基本計画」が未策定の市町村に対し計画策定について意見交換等により計画策定への理解を求め、さらに策定後概ね10年を経過する市町村に対しては、計画の検証及び改定を促進する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・県内各市町村と緑地保全等について意見交換を行い、「緑の基本計画」の策定及び更新など、良好な自然環境等の保全を図る取組を促進する。

様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況	
令和2年度の取組改善案	反映状況
<p>・公園整備による緑化については、引き続き公園用地取得に向け、地権者等の同意が得られるよう粘り強く交渉を続けるとともに、市町村を通じて地元自治会、関係者等の協力を得ながら事業を推進する。また、整備の効果が早期に発現できるよう部分的な供用開始に取り組む。</p>	<p>・公園整備の効果を早期に発現させるため、市町村を通じて地元自治会、関係者等の協力を得ながら円滑な公園整備に努め、さらに一部完成した公園については部分的な供用開始に取り組み、供用面積を増加することができた。</p>



3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)	
○内部要因	○外部環境の変化
<p>・都市公園における緑化等の推進については、公園整備を行うにあたり公園用地の確保が必要となるが、用地取得や物件補償において、事業への理解が得られないことや代替地が確保できない等の理由から、地権者の同意を得るまでに長期間を要している。</p>	-
(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)	
<p>・公園用地の取得に長期間を要することから、地権者等の同意が得られるよう、市町村を通じて地元自治会、関係者等の協力を得ながら事業を推進する必要がある。また、整備の効果を早期に発現させるため、部分的な供用開始も含めた効率的かつ効果的な整備に努める必要がある。</p>	



4 取組の改善案 (Action)

<p>・公園整備による緑化については、引き続き公園用地取得に向け、地権者等の同意が得られるよう粘り強く交渉を続けるとともに、市町村を通じて地元自治会、関係者等の協力を得ながら事業を推進する。また、整備の効果が早期に発現できるよう部分的な供用開始に取り組む。</p>
--

「主な取組」検証票

施策展開	1-(6)-イ	花と緑あふれる県土の形成	施策	② 都市、道路、郊外及び農山村の緑化
			施策の小項目名	○道路の緑化
主な取組	沖縄フラワークリエイション事業			
対応する主な課題	③主要な道路及び観光地へのアクセス道路等の沿道空間において、道路緑化及び植栽管理強化による沖縄らしい風景の創出・沿道等の周辺環境に配慮したアメニティ空間の創出が求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
亜熱帯性気候の特性を生かした魅力ある花や緑であふれる県土を形成するため、観光地アクセス道路の重点緑化を行い、沖縄らしい風景づくりを推進するとともに、温暖化防止に寄与する		H29	H30	R元	R2	R3
		70km 道路緑化・重点管理				80km(累計)
実施主体	県					観光地アクセス道路の緑化・重点管理
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課 【098-866-2665】					

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 沖縄フラワークリエイション事業							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○R2年度： 国際通りや首里城等の観光地へアクセスする41路線(80km)について、緑化(草花等)・重点管理を実施した。	
一括交付金(ソフト)	委託	707,684	519,995	368,203	374,206	423,881	370,993	一括交付金(ソフト)	○R3年度： 観光地へアクセスする道路への緑化・重点管理を推進する。計画値：80km(累計)	

予算事業名							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○R2年度：	
									○R3年度：	

活動指標名	道路緑化・重点管理延長				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	70km	70km	80km	80km	80km	77.5km	100.0%	423,881	順調	国際通りや首里城等の観光地へアクセスする41路線(80km)について、緑化(草花等)・重点管理を実施した。
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R2年度					
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 計画77.5kmに対し、実績80kmとなっており、順調に進捗している。国際通りや首里城等の観光地へアクセスする41路線(80km)について、緑化(草花等)・重点管理を実施したことにより、観光地沖縄としてのイメージアップと温暖化防止に寄与することができた。

(2) これまでの改善案の反映状況

令和2年度の取組改善案	反映状況
<ul style="list-style-type: none"> 定期的なパトロール等により生育・開花の状況を継続的に確認し、植栽箇所のできるだけ適切な花木や草花を各季節で開花できるように選定や管理方法、育成点検、灌水手法について検証し、各土木事務所や造園業者と連携して改善策を検討しながら、品質確保と向上を図る。 道路ボランティア団体への支援・普及啓発により、住民と行政の協働による「美しい道路環境づくり」を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なパトロール等を実施し、草花等の育成管理を年間通じて実施した。また、季節や植栽箇所の状況等に応じ、草花や花木を選定し、植物が良好な状態を保てるよう灌水などの対応を取った。また、造園業者と意見交換会を実施し、品質の向上に努めた。 道路ボランティアの支援と普及に努め、前年度の440団体から、490団体まで増加させることができた。また、民間資金を活用したボランティア制度について検討を行った。

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・沖縄観光のイメージアップのため、観光地までの主要アクセス道路について、年間を通して花と緑のある良好な道路空間を創出し、道路景観の向上と維持させる取り組みが求められている。

○外部環境の変化

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・年間を通して花や道路植栽を良好に保つためには、気候や周辺環境に応じた花木や草花を選定し、適切な育成点検や灌水を行う必要がある。

・メリハリある植栽・維持管理を行い、かつ効果が持続的で、良好な沿道景観の維持・向上に努める必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・定期的なパトロール等により生育・開花の状況を継続的に確認し、植栽箇所環境条件に応じた適切な花木や草花を各季節で開花できるように選定や管理方法、育成点検、灌水手法について検証し、各土木事務所や造園業者と連携して改善策を検討しながら、品質確保と向上を図る。

・道路ボランティア団体への支援・普及啓発により、住民と行政の協働による「美しい道路環境づくり」を推進する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(6)-イ	花と緑あふれる県土の形成	施策	② 都市、道路、郊外及び農山村の緑化
			施策の小項目名	○道路の緑化
主な取組	主要道路における沿道空間の緑化事業			
対応する主な課題	③主要な道路及び観光地へのアクセス道路等の沿道空間において、道路緑化及び植栽管理強化による沖縄らしい風景の創出・沿道等の周辺環境に配慮したアメニティ空間の創出が求められている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
亜熱帯性気候の特性を生かした魅力ある花や緑であふれる県土を形成するため、主要道路の重点緑化を行い、沖縄らしい風景づくりを推進するとともに、温暖化防止に寄与する。		H29	H30	R元	R2	R3
		280km 道路緑化・育成管理延長				300km (累計)
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課 【098-866-2665】					
		亜熱帯性気候を活かした道路植栽・街路樹の育成管理				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名		R3年度					令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源
県単等	委託	930,757	933,724	1,109,380	1,193,756	1,219,928	1,073,696	県単等
予算事業名							令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
							OR2年度： 主要道路（290km）について、沿道空間における除草や道路植栽・街路樹の剪定を本年実施した。	
							OR3年度： 効率的・効果的な除草作業と、道路植栽の適正管理を実施し、沿道環境に配慮した道路空間の創出を図る。	

予算事業名		R3年度					令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算額	R2年度決算見込額	当初予算額	主な財源
							OR2年度：	
							OR3年度：	

活動指標名	R2年度				R2年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
道路緑化・育成管理延長	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合A/B
実績値	280km	280km	285km	290km	290km	295km	98.3%
活動指標名	R2年度				1,219,928		順調
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	
活動指標名	R2年度						
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値(A)	計画値(B)	
(2) これまでの改善案の反映状況							
令和2年度の取組改善案				反映状況			
<ul style="list-style-type: none"> 当該ガイドラインに基づいた管理を継続し、実証試験区のモニタリングするとともに、新たな雑草防除及び景観形成に有用な植物の導入試験の実施等により、長期間良好な沿道景観の維持、除草回数の軽減を図る。 路線ごとの課題を整理したうえで優先順位をつけて街路樹の剪定を行う。 道路ボランティアの普及啓発に向けて、民間を活用した手法の検討や、ボランティアマニュアルの作成等を行う。 				<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインに基づき管理を行い、アレロパシー植物や芝等における実証試験のモニタリングや各土木事務所を含めたワーキング会議の実施により、フォローアップを行い、有効な植栽管理について意見交換を行った。また、芝の活用や新たなアレロパシー植物の試験施工を行い、良好な沿道景観の維持、除草回数の軽減を図った。 道路利用者の安全性を考慮し、街路樹剪定を行った。 道路ボランティアの支援と普及に努め、前年度の440団体から、490団体まで増加させることができた。また、民間を活用した手法の検討や、ボランティアマニュアルの作成、ボランティア表彰制度の策定を行った。 			

様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・主要道路における沿道景観の緑化事業については、沿道環境に配慮した道路空間の創出のため、年4回程度の除草作業が必要であり、路線の状況に合わせて除草回数を増やしたり、雑草の刈払い後に除草剤を散布するなど、効率的・効果的な植栽管理が必要である。
- ・街路樹の剪定について、道路利用者の安全性確保を優先し、交差点部など必要最小限しか行えず、適正管理の観点からは改善すべき点が多い。

○外部環境の変化

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・道路植栽の管理については、「沖縄県沿道景観向上技術ガイドライン」に基づき、雑草の刈払い後に除草剤を使用するなど、効率的・効果的な管理を行っており、今後も、当該ガイドラインに準じた作業を周知・徹底し、長期間良好な沿道景観の維持、除草回数の軽減を図る必要がある。
- ・街路樹の剪定については、路線状況に応じて優先順位をつけるなど、街路樹の管理の改善に取り組む必要がある。
- ・道路ボランティアとの協働による美化にも取り組んでおり、継続してボランティアの支援強化と普及啓発にも努めていく必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・「沖縄県沿道景観向上技術ガイドライン」に基づいた管理を継続し、新たな雑草防除及び景観形成に有用な植物の導入試験により効果があった手法について、実施範囲を拡大することにより、長期間良好な沿道景観の維持、除草回数の軽減を図る。
- ・路線ごとの課題を整理したうえで優先順位をつけて街路樹の剪定を行う。
- ・道路ボランティアの普及啓発に向けて、民間を活用した手法を試行的に行い効果を検証を行う他、ボランティアへの表彰を行う。